

Stability-The Key

左右の顎関節 (TMJ) と口の中でみる咬み合せは下顎骨という一つの骨でつながれているのは皆わかっている。しかし、いざ口の中の咬み合せを治療するとき、左右の TMJ をそれ程精査しないのは何故なのか。患者は普通 TMJ での問題には知識もなく、それ程口の中の問題と関連付けてドクターに告げてくることは稀であり、ドクター側で問診ないし、チェアーサイドで触診する必要がある。患者に TMJ の問題を意識し、問題点を認識してもらうには、客観的な資料が有効となる。最近では臨床医にとって TMJ の CBCT 像・MRI 像 (imaging) が手軽に用いることができるようになり、患者にその画像について説明することも可能である。TMJ の問題は小児でも存在し、成長期である思春期後期にはその問題が表面化してくる。矯正処置を求めてくる成人の患者では、円板転位 (Disc displacement, DD) は 90%以上認められ、口腔内の咬み合せを治療する上で TMJ の診査が必須と思われる。下顎の安定、stability を得ることなしに、咬み合せを変えることは大変困難であり、たまたまうまくいってもコンスタントに長く安定した結果を得ることは難しい。今回は臨床に手軽に用いられるようになった imaging をどのように診断に用い治療につなげていくのかについて述べていく。